



災害を知る まちを知る 人を知る

災害図上訓練 DIG

●DIGとは

DIG (ディグ) とは、Disaster (災害)、Imagination (想像力)、Game (ゲーム) の頭文字を取って名付けられました。

学校がある場所や、住んでいる地域に起こるかもしれない災害を、「見える化」して考えられるように、参加者がグループになり、大きな地図に書き込みをしながら、災害時の対応を考える訓練です。



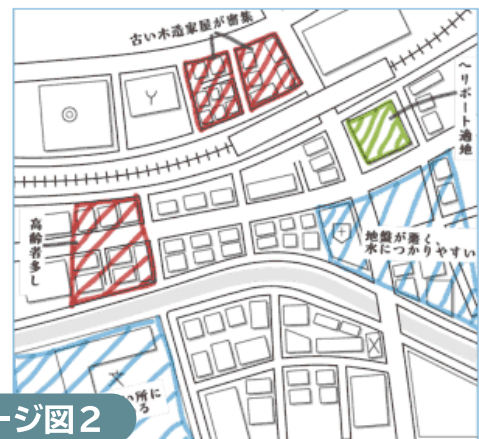
●DIGの進め方(一例)

- ①オリエンテーション (対象の災害、目的の確認など)
- ②過去の被害画像や映像、地域の被害想定などを確認し、実際に災害が起きた時のイメージを持つ。
- ③昔の地図と現在の地図を見比べて、地形から読み取れる災害リスクを把握する。
- ④街のつくりを把握するため、色分けする。(鉄道、主要道路、公園、水路など)
- ⑤病院・消防署などの施設や、地域防災に役立つ人がいる場所、危険な場所や、一人暮らしの高齢者がいる場所など、ポイントになる場所に色の異なるシールを貼る。【イメージ図1】
- ⑥出来上がった地図を確認し、地域の特徴、災害に弱い場所や、強い場所をチェックする。【イメージ図2】
- ⑦グループごとの発表やまとめを共有する。



イメージ図1

災害救助や防災に役立つ施設や人、危険な場所や、配慮したい人がいる場所に色の異なるシールを貼る。



イメージ図2

木造住宅密集地や、地盤が悪いところなど、地域の特徴や災害に弱い場所や強い場所をチェックする。

●DIGに必要なもの(例)

- 大きな地図 (昔の地図と、市町村地図や住宅地図などテーマに応じて拡大コピーし、貼り合わせる)
- 透明シート (地図にかぶせて書き込むのに使う。複数枚用意)
- カラーペン (太字・細字両用の8~12色セットが便利)
- テープ類 (地図や透明シートの固定に使うガムテープやはがせるテープなど)
- 付せん (地図上に表示したり、意見を書き出すときに使う)
- ラベルシール (地図上にマーキングするときに使う)
- 模造紙やホワイトボード (意見を書き出すときに使う)
- 丸シール (3色程度)

※参考:「特集 想像力を高めて「もしも」に備える! 災害をイメージし、防災につながる行動へ【コンテンツ編】」(内閣府)
(http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h20/11/special_03_1.html)



私たちにもできる避難所運営への協力

東日本大震災では、宮城県でも多くの高校生が震災当日から避難所の運営などに協力しました。多くの人たちが身を寄せた避難所で、地域の一員としてどのようなことができるか考えてみましょう。

石巻高校の生徒による避難所運営への協力

震災当日、石巻高校は指定避難所ではありませんでしたが、臨時の避難所となり、多くの避難者を受け入れました。

帰宅せずに学校に待機していた生徒たちは、避難所となった石巻高校で、清掃作業、プールからの水くみ(トイレ用)、診療所支援、避難した小学生との遊びなど、避難所運営に積極的に協力しました。

保健室に設置された臨時の診療所においては、生徒が診療を待つ人の案内、受付や問診の記録補助、清掃などを行いました。

震災から1週間後には、診療所の運営も軌道に乗り始め、患者さんが1日に350人を超える日もありました。

高校生たちは、避難所という大変な状況の中で、自分たちにできることを率先して行い、地域の一員としての大きな役割を果たしました。



廊下で問診する医師



診療所となった保健室で
手作りの薬袋を作る生徒

出典:みやぎ防災教育副読本「未来への絆」(高等学校)